

学校教育目標	「今日も学校に来てよかった」と思える学校づくり	経営理念	学校・家庭・地域が協働し、共育する学校づくりを推進し、これからの時代をたくましく生き抜くための資質・能力を身に付けた児童を育成する。 ○児童が主体的に学び合い、「わかった、できた、よかった」を実感できる学校 ○家庭・地域と協働・共育する、夢と感動あふれる学校
--------	-------------------------	------	---

評価計画						自己評価						学校運営協議会による評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							9月	月						
確かな学力の定着（知）	1	基礎・基本の確実な定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎・基本の確実な定着	少人数を生かした個別最適な学びの充実を図るとともに、新しい知識の獲得と既習事項の定着をねらった授業づくりをすすめる。	国語科・算数科における単元テストでの「知識・技能」の平均得点率80%以上の児童	80%	72%		90%	2	・4年生～6年生の達成値が低かった。 ・特に、知識・技能の項目では、個人差が大きく、二極化している学年が多い。 ・単なる暗記にとどまり、意味付けて理解できない児童が多い。 ・一人一人のつまずきの状況を具体的に把握し、必要な支援を講じていく必要がある。	B	・個人差が大きく二極化しているため、学習意欲・態度など個別に把握して手立てを講じる必要がある。 ・四則計算の意味理解など、一人一人のつまずきに支援を丁寧に行う必要がある。	・日々の授業において、一人一人のつまずきを具体的に把握し、そのつまずきに応じた指導の工夫をする。 ・児童にも自身のつまずきの状況を認識させ、チャレンジタイムやじゃがりんタイムにおいて、課題となる問題を児童が選んで復習していくよう、意識づけの声をかけをする。 ・自分の考えについて理由を述べたり、友達の考えを説明したりするなど、考えの意図や理由と合わせて内容を理解できるように学習活動を工夫する。
			◎主体的・対話的で深い学びの実現	児童が主体的に学ぶ課題発見・解決学習を充実させるとともに、自己調整の機会を設定した学習の充実を図る。	アンケートの肯定的評価	80%	76%		95%	2	・単元内自由進度学習の取組を中心に、自身の取組に対して理解度と学び方の視点で振り返った。振り返りの質が高まり、自身の成果を適切に振り返ることができるようになってきている。 ・うまくいかなかったときにはどうすればよいのか、課題解決のために児童が積極的に自己調整を行えるような環境が整えられていなかった。	B	・児童に少しずつ自信ができて、活発な授業になってきている。 ・自己調整を行える環境づくりへの着目は素晴らしい。この学習方法が全児童に身に付くよう、継続して取り組んでほしい。	・引き続き、授業の中で自身の学習に対する理解度や取り組み方に関する振り返りを適宜行い、評価を行うと同時に、適切に振り返りを行うことができる児童を紹介し、児童と目指すべき姿を共有する。 ・児童の実態や、児童の取り組む課題に沿った具体物や掲示物等の学習環境を整えることで、児童がより積極的に自己調整を行うことができるようにする。
豊かな心の育成（徳）	2	心豊かな人間性を培う	◎自律心の醸成	「き・だ・に」の指導を継続して行い、学校や地域でのあいさつの徹底を図る。	アンケートの肯定的評価	90%	93%		103%	4	・学級だけでなく、全校で集まる際に気持ちのよい挨拶が増えたことや自分から進んで挨拶する児童が増えている。また、地域の方からいただいた言葉も話すことで、学校以外でも自分から挨拶しようと思える児童が増えた。肯定的評価は93%と高いが、「いつもしている」と答えた児童は67%であった。	A	・子どもたちの挨拶が増えてきている。児童が進んで挨拶をすることに自信をもっている。どのような場面でも挨拶ができるよう、継続して取り組んでほしい。 ・あらゆる場面で、大人からも挨拶するよう努力していきたい。	・地域の方の言葉をしたくしたことや、肯定的な評価があることが、児童にとって挨拶しようという意欲や態度につながっているようで、今後も継続して児童に働きかけたい。特に、相手にとって気持ちのよい挨拶とはどんな挨拶かを考え、実行させていくようにする。
			体験活動の充実	地域学習（ふるさと木谷）を通して、地域の良さを伝える取組を推進する。	アンケートの肯定的評価	90%	88%		98%	2	・学年ごとに地域の方と交流しながら、木谷ならではの学習をすることができた。体験活動を通して、木谷の良さを感じることができてはいるが、伝えるところまでは今の段階ではできていない学年が多い。	B	・地域のよさを見付けて、地域に誇りをもつ児童が増えている。 ・木谷の自然・産業・歴史について、保護者の方が知らない事柄が意外にも多い。参観日の授業に取り入れることで、家庭内でも話題にできるのではないかと。 ・他の地域にはない木谷地域の良さに気付ける工夫が必要。	・地域の学習で、木谷の良さに目を向けさせたり、地域の方への感謝の気持ちをもちたせる声かけをしていく。 ・後期は学年ごとに発表機会が設定されているので、そこで木谷の良さを伝え、地域の良さを再認識させるとともに他学年の発表からも地域の良さを感じさせるようにする。
健やかな体の育成（体）	3	生活リズムを整え、健康な体づくりを進める	体力の向上	外遊びの奨励、体育科の授業・体育的行事・元氣タイムを通して体力づくりに取り組む。	反復横跳びの向上率を10%上げる	95%	80%		88%	2	・反復横跳びでは、三本のラインを廊下に引き、元氣タイムで練習できるようにした。今回夏休み期間中には、家庭での負担軽減のため、実施をしなかった。また、連日の猛暑日により、外で遊ぶことができない日も続いていたため、結果が下がってしまったと考えられる。	B	・運動能力の向上は、児童の自己肯定感の向上にも役立つので、継続して取り組んでほしい。 ・一人一人の体力が向上したことを見える化できると、各自が自然と努力に向かうのではないかと。	・引き続き、毎週水曜日の元氣タイムでの全校一斉実施に加え、体育の授業でも行い、向上を目指す。 ・体力の向上を目的とした月に一度の横跳び週間への取り組みも引き続き行っていく。 ・涼しい日には外遊びができるように声かけを行う。
			◎健康・安全な生活習慣や態度の確立	生活振り返り週間を設定し、基本的な生活習慣の定着を図る。	生活振り返りアンケートによる「睡眠時間の確保」の肯定的評価	前期90% 後期90%	93.80%		104%	4	・5.7月に実施した振り返り週間では、すでに睡眠時間を守れた児童が93.8%だった。カードに進んで取り組む児童・保護者もいるが、記入がない家庭もある。睡眠の大切さや必要性を保健指導で児童に伝え、ほけんだよりで保護者へ啓発する。ふりかえり週間を実施している意図も伝える必要がある。	A	・スマホやタブレットの使用時間は睡眠時間の確保に影響がある。また、身長の伸びや学んだことの記憶力にも影響しているので、睡眠時間の確保は大切である。 ・親に言われて睡眠を取るのではなく、子ども自ら睡眠の大切を理解して率先して睡眠を取るようになるといい。 ・保護者連携と個別指導がポイント。	・93.8%の児童が進んで睡眠時間を守ることができた一方で、取り組み状況には差がありカードの未記入も見られた。 ・今後は、児童への保健指導を通して「睡眠の大切さや必要性」についての理解を深めるとともに、ほけんだより等を活用して振り返り週間を実施する意図や家庭での取り組みの意義を保護者へ丁寧に伝え、連携強化と未記入の解消を図る。
信頼される学校	4	保護者や地域とともにある学校づくりをめざす	◎コミュニティ・スクールの推進	地域・保護者と連携した教育活動を進めるとともに、積極的な情報発信を行う。	保護者アンケートによる肯定的評価	90%	89.1%		99%	2	・9月実施の保護者アンケートの学校の情報発信に係る質問項目では、肯定的回答の割合が89.1%であった。学校だより、学年通信の定期的な発行により、タイムリーな情報発信することができた。 ・学年だよりについては、学年間で発行回数に差がみられた。	A	・学校便りは、学校の様子がよく理解できて楽しみの1つである。木谷小学校の信頼感が高まっているのは地域としても嬉しい。 ・学級通信は、保護者に学級の様子を伝える手段として重要。 ・学年通信を全校職員で共有し、共通認識を図るとよい。	・学年だよりの発行回数について学年間で差がみられたため、すべての学年で月に2回以上は必ず発行することとする。特に、学校行事や校外学習、地域の方と一緒に行った活動については、積極的に情報発信をしていく。
			働き方改革への積極的な取組	市教委の目標設定値（学校教育レベルアッププラン）を基準として個々に改善策を設定し、目標達成のための方策に取り組む。	・時間外在校等時間 ・職員アンケート「仕事にやりがいがある」と答える教員の割合	・月45時間以内・・・100% ・月80時間組・・・10% ・100%以上	60%	18%	60%	2	・4月～8月において、時間外勤務月45時間以内の教員の割合は40%で、月80時間組の教員の割合は18%であった。効率的な業務遂行に努める必要がある。 ・職員アンケート「仕事にやりがいがある」の質問項目に肯定的に回答した教員の割合は100%であった。職員に仕事を集中していることにより、少々多忙感を感じていた職員がいたものの、研究会に向けて一致団結して取り組んでいることが、仕事のやりがいにつながっていると答える。	B	・ICTやAIを駆使して事務処理時間を短縮できれば、教材研究や児童と向き合う時間を増やすことができ、仕事のやりがいにつながるのではないかと。 ・教職員の負担にならないよう、無理なく着実に実施してほしい。	・退校時間を意識して仕事を進める。 ・先のスケジュールを見直し、効率よく業務を遂行していく。 ・職員同士で声を掛け合い、お互いにフォローし合いながら、学校組織で助け合いながら仕事を進めていく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示

■自己評価

4...目標を上回って達成

2...目標をやや下回って達成

3...目標どおり達成

1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）

A...とても適切である

C...あまり適切でない

B...概ね適切である

D...全く適切でない

(N...判定できない)